

「Q&A 小児科編～企画担当者から」

この Q&A は専門家により赤ちゃんが遭遇する病気についてご両親のご理解の助けとなるよう考慮して簡潔に記載させていただきました。そのため情報が少ないと感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、主旨をご理解頂き、このホームページをご活用頂ければと思います。

選ばれた項目について簡単にご紹介させていただきます。

新生児は遺伝的要因以外でも母体からの影響を色濃く受ける時期です。ご両親が遺伝疾患をお持ちでも、その情報を適切に担当の医師にお伝えいただければ発症予測が可能な疾患も多く、周産期管理に役立てることができます。血友病などがその良い例です。また、遺伝的要因以外では、お母さん体内で産生する免疫グロブリン (Ig) のうち胎盤を通過し赤ちゃんに移行する Ig G 抗体が原因で赤ちゃんの血小板が壊される血小板減少症や赤血球が壊される血液型不適合による溶血性疾患は決して稀な疾患ではなく、分娩時および出生直後の管理が重要です。不十分な管理では時にお子さんに重篤な神経学的後障害をきたすことがあります。抗体による攻撃で血液成分が破壊される病態は、新生児期、乳児期早期までにお母さんからの移行抗体が消失していけば疾病自体は治癒する病気です。また、母体が全身性エリテマトーデスと診断された場合も、移行抗体の影響で胎児期に完全房室ブロックを生じることがあり、早期からの胎児管理が必要になります。

臍帯血という言葉をお聞きになった事があるかもしれません。臍帯血はその成分に幹細胞と呼ばれる特殊な細胞が多く含まれています。これは骨髄移植に代わる治療として幹細胞移植に利用可能ですが、臍帯血を採取するチャンスは基本的に出生時のみです。多くは破棄されている現状がありますので、この項をお読みになって臍帯血の採取にご協力いただければと思います。

輸血は新生児集中治療室で最も基本的な治療の一つで、新生児期は他の年齢層と比較して輸血をしなければならない機会が多い時期です。輸血治療を受けるといってご心配な点が多いかと思いますが、少しでもご参考になればと思います。

最後に、播種性血管内凝固症候群(DIC)と一過性骨髄増殖症(TAM)は稀な病気です。育児書などにも書かれておらず、ホームページなどでもご両親向けに書かれているものは稀ですので、ご参考にしていただければ幸いです。

(細野 茂春)